ボーリング柱状図

調　査　名　国道182号　道路災害防除事業（法面対策）に伴う業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	5	1	3	3	7	2	4	5	0	0	5

シートNo.　5

ボーリング名	A139B2	**調査位置**	広島県福山市加茂町外	**北　緯**	34°37’03.6800″
発注機関	広島県東部建設事務所	**調査期間**	平成29年 1月 6日～平成29年 1月21日	**東　経**	133°19’00.8600″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人** / **コア鑑定者** / **ボーリング責任者**	
孔口標高	TP 452.89m	**角度** 180° 上 下 0° 90° 0° / **方向** 0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 / **地盤勾配** 0° 水平0° 鉛直 90°	**使用機種** 試錐機	東邦製D-0型	**ハンマー落下用具** 半自動型
総掘進長	15.00m		**エンジン**	ヤンマーNF80型	**ポンプ** 東邦製BG-3型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分
	452.59	0.30		表土	暗茶						自然地山および造成などによる未固結層が分布する。砂利および粗粒土で構成されている。	
	448.59	4.30		強風化輝緑岩	淡茶緑	D	IV	c	δ	3	外周残すものの全体的に風化している。部分的に短棒状コアを含む硬軟互層を成している。短棒状コアには線状脈が発達しており容易に砕ける。GL-2.4～3.0m区間で漏水有り、岩柱の亀裂間に粘土を挟む。	CL
	445.99	6.90		強風化砂岩	黄茶褐	D	VI	d	δ	3		D
					黄茶白	D	IV	c	γ	3	外周残すものの全体的に風化が進行し、風化礫および固結した土砂を呈する。線状脈が発達しており、軽打にて脈沿いに砕け礫状となる。礫の表面は赤褐色に変色している。	D
	437.89	15.00		風化輝緑岩	淡白茶	C	III	b	β	2	地層境界部にあたる。GL-7.2～7.4m区間：粘土を含む礫状コアとなる。コア肌比較的新鮮であるが亀裂が発達している。短棒状～棒状コアを主体とする。線状脈が発達しており、ハンマー打にて砕けサイコロもしくは岩片状となる。泥岩の薄層を挟み褶曲も見られる。 傾斜角度は、40～50度を成す。 GL-10m以深より色調変化が生じ5～10cm程度の破砕された礫状の薄層を挟む。	CL

コア採取率（%）／最大コア長 cm／RQD［%］

区間 m	最大コア長[RQD](コア採取率)
0–1	0[0](100)
1–2	13[39](100)
2–3	9[0](100)
3–4	14[0](100)
4–5	0[0](100)
5–6	0[0](100)
6–7	0[0](100)
7–8	25[38](100)
8–9	30[57](100)
9–10	70[80](100)
10–11	34[80](100)
11–12	30[64](100)
12–13	17[45](100)
13–14	27[42](100)
14–15	15[26](100)

孔内水位／測定月日: 1/19 4.00、4.50、1/21 5.50、1/23 9.60

標準貫入試験

深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm
1.15–1.30	50/15
2.00–2.09	50/9
2.90–3.10	50/20
4.00–4.25	50/25
5.00–5.07	50/7
6.00–6.20	50/20
6.95–7.04	50/9
8.00–8.05	50/5
9.00	貫入不能

原位置試験　室内試験

掘進状況

掘進月日	掘進速度 cm/時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l/分	排水量 l/分
1/6	33	86/ケーシング	S/M, W/M, W/M	10	120	0 / 0	無水/0	0 / 12
			W/M	20	120	0	清水/12	12
1/7	65		W/D	30	160	0 / 0 / 0	清水/12 / 清水/12 / 清水/12	12 / 8 / 12
1/19	58		W/M	30	120	0	清水/12 / 清水/12	12
1/20	63	66/泥水		30	160	0	清水/12	12
1/23	63		W/D	30	160	0	清水/12	12